

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C141	17-311	慶應義塾大学 加藤眞三
題名(原題/訳)		
Web-Based Alcohol Intervention: Study of Systematic Attrition of Heavy Drinkers. ウェブ・ベースのアルコール介入:大酒家の体系的ドロップアウトに関する研究		
執筆者		
J Med Internet Res. 2017 Jun 28;19(6):e217.		
掲載誌		
Radtke T ¹ , Ostergaard M ^{2,3} , Cooke R ⁴ , Scholz U ^{1,5} .		
キーワード		PMID:
ドロップアウト、飲酒介入、インターネット、動機付け		28659251
要旨		
<p>背景 ウェブ・ベースのアルコール介入は、その匿名性と大酒家を含む多数の個人と連絡がとれることからアルコール消費を減らすための有望な方法である。しかしながら、ウェブベースの介入は参加者のドロップアウトが高率であることで、しばしば特徴づけられる。現在までの極めて少ない研究において、アルコールを大量に消費する個人がアルコール消費の少ない個人と比較してウェブベースのアルコール介入でより高い減少率を示すかどうか調査されている。</p> <p>目的 本研究の目的はアルコール消費に関してウェブベースの介入研究でドロップアウト率とドロップアウトを予想するものを調べることである。</p> <p>方法 ドロップアウト率の予測手段の分析はウェブベースの無作為抽出試験で集められるデータで行われた。データ収集はドイツ Konstanz 大学で行った。合計 898 人(平均年齢 23.57(SD 5.19)歳、男性 46.8%(420/898)と女性 53.2%(478/898))は、アルコール消費を減らすためにウェブベースの介入研究に参加すると最初に申し出た。参加者の 86.9% (781/898)は学生であった。彼らがウェブベースの介入を完了しない場合、参加者は非完了者(439/898、48.9%)と分類された。ドロップアウト率を予測するものとして自己申告による次の指標を測定した:最後の 7 日間の飲酒、週当りの飲酒、月曜日から木曜日の飲酒、週末の飲酒、Alcohol Use Disorder Identification Test (AUDIT) で測定される過剰飲酒行動、Drinking Motive Questionnaire (DMQ-R SF) で測定される飲酒動機。</p> <p>結果 最後の 7 日間(B=-.02、P=.05、95%CI[0.97-1.00])、週末(B=-.05、P=.003、95%CI[0.92-0.98])、(AUDIT) (B=-.06、P=.007、95%CI[0.90-0.98]、学生としての状況(B=.72、P=.001、95%CI[1.35-3.11]))において完了者と非完了者の間で有意差があった。最も重要なこととして、非完了者は完了者と比較して有意に大量のアルコールを消費した。</p> <p>結論: 危険なアルコール消費はウェブベースのアルコール介入研究のドロップアウト率の変動主要因であるように見える。このようなウェブベースの介入でリスクが高い参加者を保つために戦略を開発することは重要である。</p>		